



シモマツチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 盛岡中央高校附属中学校副校長

第25回

「みそあじ」を掘り下げる

□ 生活指導の基本

皆さんはどんなラーメンが好きですか。私は「みそあじ」が好きです。というわけで、今回は「みそあじ」の話をしたと思います。でもここでいう「みそあじ」とは、「み〓身なり」「そ〓掃除」「あ〓挨拶」「じ〓時間」のことです。これを生活指導のスローガンのとして掲げている学校もあるようです。

私は講演会などの場で、次のような問いかけをすることがあります。

注意してもさっぱり言うことを聞かない生徒がいました。そのような生徒にあなたはどんな指導をしますか。次の三つから一つを選ぶとすればどれでしょう。

- 1 担任指導、生徒課長説諭、校長訓告などといった段階を踏んだ指導を徹底する。
- 2 カウンセラーなどと共同し、対話と傾聴のスタンスで生徒の話をよく聞いて掘り下げる。
- 3 1カ月間毎日庭の掃除をしてもらいな

がら様子を観察する。

皆さんならどれを選びますか。私は「3」を選ぶと思います。その理由を述べる前に、私の断食の経験について少しお話ししたいと思います。私はときどき断食をして心身の健康を保っています。断食をする、気のせいかもしれませんが、血流や代謝など身体の循環が良くなる感じがします。もしかししたら、それまで消化や吸収の仕事をしていた臓器がヒマになるので、じやあ俺たち本気出すかとばかりに、これまで眠っていたパワーを開花させるのかもしれませんが。

健康とは、悪い菌や老廃物がない状態のことではなく、それらもよいものとして、同時に循環していることだと思っています。もし悪い菌を取り除こうとしてそこに集中すると、循環が停止し、よい活動もストップしてしまいかもかもしれません。

そしてそれを、「幸せ」についてのメタファーであるとも捉えています。幸せとは、悩みや苦しみや怒りや痛みなどの感情がな



イラストも筆者

い状態のことではなく、そういう状態も受け入れつつ、それらをごくぐる循環させることが大切だということです。もし、苦しみを除去しようとしてそこに集中すると、循環が停滞し、喜び、やる気、勇気などのポジティブな思いも止まってしまおうと思うのです。なぜなら、勇気は恐れによって生み出され、優しさは悲しさから導かれるものだと思うからです。

ではその循環とは具体的にどのようにして生み出せばよいのでしょうか。三つのポ

イントがあると考えています。一つは、自分の負の感情を人と共有すること。つまりそれを語りあえる人間関係をつくることです。二つ目は、些細なことに喜びを感じる心の感度を高め、感謝の心を持つことです。そして三つ目が「習慣をつくる」ということです。

□「みそあじ」の哲学

先ほどの問いにもどりましょう。なぜ「掃除」を続けるか、それは「習慣」をつくるためなのです。人はプラスの面だけではなく、必ず闇の部分を持って生きています。ではその闇は、撲滅、排除すべきものかという点、そうではないし、そもそもそんなことはできないでしょう。人は絶対に闇を抱えている生き物です。それが何かのきっかけで暴走したとき問題行動が発生します。習慣をつくるということは、闇が暴走しないようにコントロールし調和させる、つまり循環させることと私は考えたいのです。

悪い行動を起こしてしまうのは誰にでも

あります。そんな時、自分の中の闇を葬り去るのではなく、それを受け入れ、向き合い、闇に振り回されない生き方を追求していく。そこに習慣の力が必要になると思います。掃除を罰則、ペナルティーと捉えて仕方なく続けるのではなく、習慣を築くことで、生活を整え、人柄をつくり出すという意味で捉えるのです。習慣によって、謙虚さが保たれ、よい人間関係が生まれていく。それは一つの「美」の形ともいえるのではないかと思います。

教育哲学者の森信三さんによると、「場を清める」(掃除)こと、「礼をただす」(挨拶・身なり)こと、「時を守る」(時間)こと、つまり「みそあじ」を職場再建の3原則と提起しています。時を守り、場を清め、礼をただす。

「みそあじ」を、単に生徒が守る「べき」規則なのだとマニュアル化し追い込んでいくのではなく、このような「みそあじ」の中にある哲学みたいなものを子どもたちに語ってあげれば、心が動くのではないかと思うのです。